

ヤハヤ シュロ ダ ドイツ出身の元世俗主 者

5.0

明:

このドイツ人の少年がいかにイスラ ムへ改宗し、クラスメイトの敬意を ち取ったについての印象的な逸 。

目: [事新改宗者ムスリムの逸 男性](#)

より: ヤハヤ シュロ ダ

日 03 Mar 2014

集日 03 Mar 2014



の名はヤハヤ シュロ ダ です。 は「ヨ ロッパ人」ムスリムです。 は11ヶ月前、17 でムスリムになりました。 はドイツのポツダムに住んでいます。非ムスリム国家における、のムスリムとしての について皆さんと共有したいと思います。

はイスラ ム改宗者として、ここで育った生来のムスリムたちよりも、ディ ン（宗教）の 践が容易な状 にあると思っています。 の知るほとんど全ての生来のムスリムたちは、ドイツ人との同化を望んでいます。彼らにとって、イスラ ムとは なる 的なものであり、ドイツ人として められるためには ててしまわなければならないものなのです。しかし、たとえ彼らが宗教を て去ってしまっても、ドイツ人たちは彼らを受け入れたり はしないことを彼らは知りません。

は小さな村で育ちました。 は母 父と共に、大きな庭とプ ル付きの豪邸に住んでいました。 はティ ンエイジャ として、「ク ルな」人生を生きていました。 は他のドイツ人の若者たちと同じように、何人かの友人たちと 鹿げたことやアルコ ルを んだりして び回っていました。

ドイツでのムスリムとしての人生は、特に のようなドイツ人ムスリムにとって、人が思うよりも困 なるものです。なぜなら、一般ドイツ人にイスラ ムについて知っていることは何かと えば、答えはアラブ人に わるものが返ってくるからです。彼らにとっては数式のように、イスラ ムすなわちアラブなのです。

彼らは らの巨大な共同体についても知りません。 がイスラ ムに改宗した は、家を出て、ベルリン近郊のポツダムにあるコミュニティに引っ越さなければなりませんでした。 は豪邸とそれにまつわる物 的なものを て去ったのです。

母 父と住んでいた は、全てがありました。豪邸、お小遣い、テレビ、プレイステ ション。お金の心配をする必要は全くありませんでしたが、幸福ではありませんでした。 は、他の何かを探し求めていたのです。

16 になったとき、 は2001年にムスリムになった 父を通して、ポツダムのムスリム コミュニティに 介されました。 は月に一回、父に会いに行っていたので、彼と 日曜日に催されていたコミュニティ集会に行きました。

その当 、 がイスラ ムに 味を持っていることに 付いた父は、一 にいるときは敢えてイスラ ムのことを したりはしませんでした。なぜなら彼は が知 ある人々から学ぶことを望

んでおり、人が「彼がムスリムになったのはまだ17 だから、父 のすることを真似したがる年 なんだよ」と言われるのを嫌ったからです。

はそれに同意し、月コミュニティに足を び、イスラ ムについて多くのことを学びましたが、あの事故が起きて以来、 の考え方はすっかり わりました。ある日曜日、 はムスリムのコミュニティ スイミングに行き、プ ルに び もうとした に から地面に激突し、背骨を2ヶ所骨折したのです。

父が を病院に び むと、 は医 にこう言われました。

「君は酷い骨折の仕方をしたんだ。少しでも に くと、障害を持つことになるよ。」

その言 は をちっとも励ましはしませんでした。手 室に入る直前、ムスリム コミュニティの友人の一人はこういうことを言ってくれました。「ヤハヤ、今の君はアッラ（神）の御手の中にあるんだ。ジェットコ スタ に っていると思えばいい。それを しみながら、神に全てを委ねよう。」その言 は をすごく励ましました。

手 には5 を要し、 はその3日 に目を ましました。 は右腕を かすことが出来ませんでした。自分が地球上で最も幸福な人 だと思いました。 は医 に「右腕のことは わない。神によって生かされているだけで十分幸せだ」と言いました。

医 たちは、 に数ヶ月の入院が必要だと言いました。しかし は 命にリハビリに励んだため、病院にいたのは か2 だけでした。ある日、医 が来てこう言いました。「今日は 段を一段登れるようになりましょう。」はそのリハビリを、2日前に既に自分一人で ませていました。

在、 は再び右腕を かすことが出来るようになりました。アル＝ハムドゥ リッラ（神に称 あれ）。この事故は、 の性格を大幅に えました。

は、もし神がそうお望みになれば、人の人生は一秒で わってしまうことを知りました。それゆえ、 は人生について真 に捉え始め、自分の人生とイスラ ムについて考える事に多くの を やしましたが、当 はまだあの小さな村に住んでいました。

はムスリムになりたくてしょうがなかったため、家を出なければなりません。はポツダムに行くため、母と父、そして裕福な暮らしかられたのです。は父の小さなアパートに引っ越し、キッチンで寝泊まりしましたが、に必要だったのは数着の衣服、学校の教科書、そして数枚のCDだけだったので、苦にはなりません。

者の一部には、がすべてを失ってしまったかに映るかも知れませんが、はあの酷い事故の日に病院で目めたときと変わらず幸福です。その翌日は、ラマダンの月一日でした。さらにその翌日は、新しい学校での最初の日でした。

学校での最初の日翌日、はシャハダ（イスラム改宗の信仰言）をしました。神にえあれ。新しいアパート、新しい学校、初めての家族かられた生活。にとっては全てが新しいことでした。学校でがムスリムであることが分ると、他の生徒からからかわれ始めました。

彼らが日々メディアから植え付けられていることを考えると、それはごく当然のことなのかも知れません。「テロリスト!」「オサマビンラディンが来るぞ!」「らわしいムスリムめ!」一部はただにが狂人であると考えました。彼らはがドイツ人であることすら信じようとしませんでした。

しかしその10ヶ月の今、状はすっかり化しました。はクラスメイトへのダアワ（イスラムへの布教）に励み、が学校で唯一のムスリムであるにも変わらず、礼室を得ることが出来ました。

クラスメイトたちもからかうことを止め、イスラムについての真なをして来るようになりました。彼らはイスラムが他の宗教とはなることに付いたのです。彼らはイスラムがクルだということを知ったのです!

彼らは、ムスリムにはお互いへのもてなしであるアダブ（礼）があることを知りました。またらには同力に屈しない独立性があることにも付きました。らはありのままに振る舞い、校内のグループに属したりする必要性を感じないのです。

の学校には3つの主要なグループがあります。ヒップホップ、パンク、そしてパーティ系グループです。皆は他人に認められるために、いずれかのグループに属そうとします。

もちろん、それは以外です。皆と仲良くすることが出来ます。は「クール」になるために特別な衣服を着たりはしません。なので、彼らはとムスリムの友人たちをバベキュパーティにいつもしてくれるようになったのです。

素晴らしいことに、彼らはムスリムとしてののをめ、のためにハラールフードを用意し、たちムスリム用のグリルをに用意してくれたことです。この人々は、イスラムに容があると感じています。

この事のウェブアドレス:

<https://www.islamreligion.com/jp/articles/1187>

著作 2006-2015 断 を禁じます。 2006 - 2023 IslamReligion.com. 断 を禁じます。